

平成28年5月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成28年5月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

去る4月21日、八戸屋台村「みろく横丁」が新規出店も兼ねてリニューアルオープンしました。東北新幹線八戸駅開業を機に2003年にオープンした同横丁は、3年ごとに店舗を入れ替えており、今回は5期目として、新しいスタートを切りました。八戸へお越しの際は、リニューアルした「みろく横丁」へ是非お立ち寄りください。

◎八戸特派大使の方々へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市広報統計課または八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 5月号 レポート

平成28年4月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項目
1	青森県人口 130万人割れ確実
2	学校司書に市民3人を委嘱 10の小・中学校に配置
3	八戸市、中核市指定を総務相に申し出
4	県内宿泊施設 6割が受動喫煙対策実施せず
5	本のセレクトショップ「八戸ブックセンター」に名称決定
6	八戸市観光情報サイト「八戸観光Navi」開設

【産業】

No.	項目
7	ユニバーズ 北インター工業団地に給菜製造拠点を新設
8	「ホテルトラ八戸」薄毛の人“ハゲます”割引
9	アルパジヨウ「朝の八甲田」上海で常設売り場を展開

【地域】

No.	項目
10	蕪島公園整備完了 休憩所も再開
11	へんどうグランプリで吉田屋が2年連続金賞！
12	茂木健一朗さんが講演 ～新しいことへの挑戦で脳のアンチエイジング～
13	「クインの街・八戸」目指しクインフェア開催
14	岡田益男八戸高専校長が日本金属学会最高賞を受賞！
15	八戸の味「せんべい汁」南極デビュー。南極基地での越冬を支える。
16	NPO法人「はちのへ未来ネット」子育て支援で内閣府特命担当大臣表彰！
17	八戸屋台村「みるく横丁」リニューアル
18	市民病院裏の「毘沙門のイチョウ」移植10年衰弱進む
19	八戸学院大・光星高など 海外留学推進で企業と協定締結

【文化・スポーツ】

No.	項目
20	国際アピリンピック・フラーアレンジメント競技で坂本朋子さん世界3位！
21	全日本チンボンコンクール 八戸出身の永田美香さんチーム連覇！
22	宝塚歌劇団 星組トップスターの北翔海莉さん（八戸生まれ）退団へ

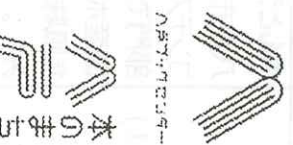
(1) **青森県人口 130万人割れ確実**
 青森県の推計人口が5月発表予定の統計で130万人を割る見通しであることが分かった。県が公表した3月1日現在の推計人口は130万3776人。例年、3月には就職や進学などで県外転出者が大幅に増加し、毎年、人口が5～6千人減少することから、4月1日現在で129万人台に突入するのはほぼ確実な情勢となった。県人口はピーク時の1985年には約152万4千人に達したが、約30年間で戦後間もない1950年の水準に戻ることになった。

(2) **学校司書に市民3人を委嘱 10の小中学校に配置**
 学校図書館の活用を促そうと、八戸市は本年度から市民3人を外部講師として学校司書に委嘱し、市内の小中学校10校に配置する。学校司書の委嘱は、市が進める「本のまち八戸」構想の一環。学校司書は、子どもたちが図書館に足を運びやすい環境を整え、学習に役立つ資料を紹介するなど、本を手取る習慣付けに一役買う。青森県内では学校司書の配置が遅れており、市部では初の試み。今後、市内全域への事業拡大を検討する。4月5日に市庁で委嘱状の交付式があり、伊藤教育長が「本に親しむ生徒が増えることを期待している」と3人を激励した。

(3) **八戸市、中核市指定を総務相に申し出**
 2017年1月1日の中核市移行を目指す八戸市の小林眞市長は4月7日、高市早苗総務相に、中核市への指定を求める申出書を提出した。当市が指定されれば、48市目の中核市となる。総務省によると、関連政令の改正作業には、数カ月を要する見通し。改正政令が閣議決定を経て、公布されると指定が決定し、施行と同時に中核市に移行する。小林市長は「市長就任当初から中核市を目指していた。来年1月に移行できると確信しており、今後、県からの事務委譲がスムーズに進むようにやっていく」と強調した。

(4) **県内宿泊施設 6割が受動喫煙対策実施せず**
 青森県は、2015年6～12月に県内のホテルや旅館、簡易宿所を対象に、受動喫煙防止対策実施状況を初調査した。施設内禁煙や分煙など何らかの対策を講じている施設は全体の約3割にとどまり、約6割が未実施だった。喫煙部屋の割合は、地域別では下北が最も高く78.5%。三八は64.8%、上十三は52.8%だった。非喫煙者の多くが受動喫煙を避けたいと感じているにもかかわらず、3分の2の施設で具体的な対策がなく、利用者のニーズと施設側とのギャップも明らかになった。

(5) **本のセレクトショップ「八戸ブックセンター」に名称決定**
 八戸市は、今秋に開設する本のセレクトショップについて、名称を「八戸ブックセンター」に決定し、ロゴマークを発表した。ロゴマークの制作は、センターを監修するブックコーディネーターの内沼晋太郎氏（東京都在住）に依頼し、東京のデザイナースタジオ「グラーヴィ」が手掛けた。「本と本、本と人とのつながりを体験してもらいたい」がコンセプトで、いずれも2冊の本で形作った八戸の「八」を用いた。ブックセンターは六日町に建設された複合ビル「ガーデンテラス」11階に入居。10～11月のオープンを目指す。



(6) **八戸市観光情報サイト「八戸観光Navil」開設**
 八戸市は、市の観光情報に特化したホームページ「八戸観光Navil」を開設した。「朝市」「横丁」「八戸三社大祭」などの観光スポットを「八戸100の物語」として紹介。外国人観光客の増加も見込んで、英語版も作成し、本年度中に、中国版、韓国版も作成する。従来のホームページより、食や宿泊予約などの内容を充実させ、観光地としての魅力をPRしている。八戸観光Navilのホームページは<http://hachinohe-kanko.com/> 市ホームページ内の「八戸市観光情報」からもアクセスできる。

【産業】

記事	概要
(7)	<p>ユニバーズ 北インター工業団地に総菜製造拠点を新設</p> <p>北東北でスーパーを展開するユニバーズは、八戸市の八戸北インター工業団地に「ユニバーズ惣菜センター（仮称）」を新設する計画を発表した。同社が総菜製造の拠点を開設するのは初めて。店舗数の増加や商圏拡大を背景に、消費者のニーズが高い総菜を集中的に製造して生産性の向上を目指し、新たな雇用も創出する。稼働開始は2017年9月の予定。</p>
(8)	<p>「ホテルデトラ八戸」薄毛の人“ハゲます”割引</p> <p>八戸市尻内町の「ホテルデトラ八戸」は、髪の毛が薄い人を対象に宿泊料金を割り引く「ハゲますサービス」を始めた。「ホテルの清掃は、浴室の排水溝のヘア処理がけっこう大変」という従業員の話をヒントに、つるつる頭の社長が「自分みたいに毛がなければ掃除は助かるのでは」と考え、「光るアイデア」を実現した。チェックイン時に自己申告すれば、全プランから一律300円安くするという。支配人は「サービスの利用はあくまでもご自身の判断、自己申告でお受けします。ホテルでゆっくりつろいで、次の日は活動しなげんでください」とPRしている。</p>
(9)	<p>アルパジヨン「朝の八甲田」上海で常設売り場を展開</p> <p>八戸市で洋菓子店を展開するアルパジヨンは、主力商品のチーズケーキ「朝の八甲田」の中国・上海への輸出を始めた。6月中に現地の百貨店など9カ所で常設売り場を展開する。また、年内に上海市内の百貨店やスーパーなどで売り場40カ所を常設し、フルーツ味のほか、リンゴ味やチョコ味など5種類を置く予定。輸出元は、貿易会社のフューストアインターナショナルが担い、今後八戸港から順次輸送する。4月27日に5個入りの商品2500箱が上海港に向けて出港した。</p>

【地域】

記事	概要
(10)	<p>蕪島公園整備完了 休憩所も再開</p> <p>八戸市が鮫町の蕪島地区で進めていた海浜公園の整備が3月末で完了し、4月1日から開放され、内装工事のため一時閉所していた休憩所も同日オープンした。蕪島へ続く歩道や広場は、コンパクトジョック型の舗装を施し、海浜公園駐車場はウッドデッキにしてベンチを置き、景色を眺望できる場所にした。市は2016年度以降に、市水産科学館イベントとの間にある蕪島多目的広場を、散策できるフロムナード公園とするほか、駐車場周辺に物産販売施設を整備する方針である。</p>
(11)	<p>ペンとうグランプリで吉田屋が2年連続金賞！</p> <p>八戸市の老舗駅弁店「吉田屋」が製造する「大玉ほたてと大漁ウニ弁当」が、日本最大級の食品コンテスト「フカベックス 惣菜・ペンとうグランプリ2016」（日本食糧新聞社主催）の駅弁・空弁部門で最高賞の金賞に輝いた。「大玉ほたてと大漁ウニ弁当」は、一面に盛り付けたウニと特大の道産ホタテが特徴。ウニの下にはソリをトッピングし、八戸地方の郷土料理「いちご煮」をイメージした風味を出した。期間限定で新青森駅、八戸駅でも販売する予定。価格は1780円（税込み）。</p>
(12)	<p>茂木健一郎さんが講演 ～新しいことへの挑戦で脳のアンチエイジング～</p> <p>4月3日に八戸市公会堂で「スミセイ ライフフォーラム 生きる」（住友生命健康財団主催）が開かれ、脳科学者の茂木健一郎さんが「脳のアンチエイジング」を題して講演した。社会貢献事業の一環で、「生きる」をテーマに全国各地で講演会やコンサートを開催しており、今回は約1600人が訪れた。茂木さんは、日常生活での具体例を挙げながら「少し不安になってドキドキするような初めてのこと挑戦し、それがうまいとヒーローが出て脳全体が活性化すると説明。自分自身の個性を受け入れること、新しいことに挑戦することがアンチエイジングの最大のポイントと来場者に訴えた。</p>

	<p>「クインの街・八戸」目指しクインフェス開催</p> <p>「クインの街・八戸」を目指す八戸市のソムリエらのグループが5月22日、同市で3回目となる「八戸クインフェス」を開く。八戸ポーカールミュージウム「はっち」を会場に、世界300種以上のクインの試飲が楽しめるほか、クインやチーズの専門家による無料セミナーなど8講座を開催。また、若手ソムリエやピエオンを決める「八戸S-1グランプリ」を公開開催する。同市では、南郷区のブドウ生産者らがクインの産地化を目指す取り組みを進めており、生産者が情報発信する場や長年クイン造りに取り組んでいる人の話を聞く場を設けたい考え。</p>
(13)	<p>岡田益男八戸高専校長が日本金属学会最高賞を受賞！</p> <p>3月23日に東京理科大で開かれた第158回日本金属学会春期大会で、八戸高専の岡田益男校長が学会最高の賞である日本金属学会賞を受賞した。水素を作る、ためる、利用する、という点に着目し、金属材料を使用した水素の有効活用法の新たな研究分野に尽力したことが高く評価された。岡田校長は、東北大学教授、同総長補佐などを歴任、2011年に同高専校長に就任した。</p>
(14)	<p>八戸の味「せんべい汁」南極デビュー。南極基地での越冬を支える。</p> <p>南極で越冬する第57次南極観測隊で、せんべい汁が隊員の食事として提供されている。八戸市出身の渡貫淳子さんが調理。渡貫さんは、都内で飲食関係の仕事に携わってきたが、南極への憧れから厳しい試験を経て南極観測隊に加わり、調理担当として30人分の食事を同僚と2人で作っている。南極と日本は季節が逆で、今は冬に向かっており、「だんだんと寒くなってきたので温かいものを」とせんべい汁を提供した。隊員の反応は「不思議な味」など上々だという。</p>
(15)	<p>NPO法人「はちのへ未来ネット」子育て支援で内閣府特命担当大臣表彰！</p> <p>八戸市のNPO法人「はちのへ未来ネット」が、子育てを担う家族の支援活動で顕著な功績があった団体や個人を表彰する内閣府の「子供と家族・若者応援団表彰」子育て・家族支援部門で、内閣府特命担当大臣表彰を受けた。同団体は、ものづくりや文化に触れながら親子で楽しむイベント「はちのへ子どもフェスタ」を毎年開催し、2011年2月からは、市の委託を受け、はっち内で大人と子どもの交流拠点「こどもはっち」を運営。また、子育て以外に小中高生のボランティアや職業体験を企画する「どーむキャンパス」を開催するなど地域に密着した事業を展開している。</p>
(16)	<p>八戸屋台村「みるく横丁」リニューアルオープン</p> <p>八戸市中心街の八戸屋台村「みるく横丁」が4月21日、店舗の入れ替えや改装工事を経てリニューアルした。みるく横丁は、東北新幹線八戸駅開業を機に2003年にオープンし、起業家育成の一環で3年ごとに全面改装している。今回は全26店のうち新規店が6店で、既存店も大半が場所を変えて営業を継続している。14年目を迎え、関係者は地域や旬の食材の提供に力を入れ、おもてなしの機運醸成に努める。</p>
(17)	<p>市民病院裏の「毘沙門のイチヨウ」移植10年衰弱進む</p> <p>八戸市立市民病院裏にある通称「毘沙門のイチヨウ」が、2006年の移植から約10年を経て、衰弱が進んでいることが分かった。このイチヨウは、青森県の都市計画道路の延長線上にあったが、保存を求める声もあり、2006年に元の場所から135メートルほど移動させた。しかし、古木であることから移植に耐えられるか懸念されていた。2、3年は健康的だったが、近年は葉が小さく、ならないこともあったという。管理する八戸市田向土地区画整理組合は、樹勢の回復を目指して、5月中旬から本格的な治療を開始する。</p>
(18)	

	<p>八戸学院大・光星高など 海外留学推進で企業と協定締結</p> <p>学生・生徒が海外留学しやすい環境を整備するため、八戸学院大学、同短期大学、同光星高校、野辺地町の同野辺地西高校は、世界各国で語学学校などを展開する企業「イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン」（E F 社）と連携協力協定を締結した。E F 社は、4校の学生・生徒が国外に43ある自社の語学学校へ通うための事務を請け負い、学校や滞在先探しなどに関わる学生・生徒の負担を軽減する。将来的には、留学を取り入れた高大7年間で語学教育プログラム実施や、市民が生涯学習として留学する際に、大学が窓口となるような仕組みづくりも視野に入れている。</p>
--	---

【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	<p>国際アピリンピック・フランクフルト大会「国際アピリンピック」がフランクフルト市の開催され、フランクフルト大会で、八戸市の会社経営・坂本朋子さんが銅メダルに輝いた。坂本さんは、仕事帰りに市内の生花店で連日、深夜まで練習し大会に臨んだ。5時間の制限時間内に三つの作品を仕上げる“体力勝負”の競技で、世界13カ国のライバルを押し分け、見事に快挙を達成。「多くの人に大会を知ってもらい、障がい者の方々への働く希望や意欲につながってほしい」と坂本さんは期待している。</p>
(21)	<p>全日本チンドンコンクール 八戸出身の永田美香さんチーム連覇！</p> <p>4月8～10日に富山市で開催された「第62回全日本チンドンコンクール」Jプロの部で、八戸市出身の永田美香さんが率いるチーム「チンドン芸能社 美香」が優勝した。昨年の第61回大会に続く連覇。審査内容は、口上や太鼓の演奏、宣伝のアイデアやユーモアなど。永田さんらは南総里見八犬伝をテーマにした演技を披露し、予選と決勝トーナメントを順当に勝ち上がった。決勝の相手は長崎県のチームで、審査員9人による判定の結果、7対2で勝利し、念願の連覇を達成した。</p>
(22)	<p>宝塚歌劇団 星組トップスターの北翔海莉さん（八戸生まれ）退団へ</p> <p>宝塚歌劇団は4月26日、星組トップスターの北翔海莉さん（八戸市生まれ）が11月に退団すると発表した。北翔さんは、1998年に宝塚歌劇団に入団し、昨年5月、特定の組に所属しないベテランの団員が集まる「専科」から星組トップに就任した。11月20日の東京宝塚劇場の公演「桜華に舞え」Jロックス！！の千秋楽が最後の舞台となる。</p>